地域新聞 みあき 第3号

地域新聞みあき製作委員会
2017年5月1日　発行
連絡先 info.miaki@gmail.com

新体制決まる

（文責）原田　浩明

去る3月12日、平成28年度三秋地区通常総会が開催されました。各種報告（活動報告や会計監査報告等）の後、任期満了となる各種役員の改選が行われました。新しく選出された役員の方々からは、三秋の為に頑張りますとの力強い挨拶を頂き、出席者一同、気持ちを新たにしました。

三秋地区通常総会（三秋集会所にて）

新三役・決意新たに！

（文責）原田　浩明

左から三野専務総代、稲垣区長、藤井総代

コミュニティ広場オープン!!

（文責）西川　清

平成29年度、区長・新総代二人より、新年度の抱負を伺いました。

三秋地区全住民の安心・安全の堅持と静かで、暮らし易いと実感できる地区を作りあげたいと思っております。具体的には、第一に、大池土手決壊等、防災対策の推進については、避難訓練の企画案策定と実践訓練の実施。第二に、コミュニティ広場を活用し、全員が参加できるようなイベント等の企画。第三に、昨年、三秋に誕生した「地域新聞みあき」が羽ばたき、より一層の成長と発展に貢献出来ればと考えております。三秋の皆様、宜しくお願い致します。

ショベルカーで古い土を除去

去る2月26日と3月5日に、評議員さんを中心とした有志で、コミュニティ広場の整地を行いました。雑草ぼうぼうの状態から見違えるようになりました。先ずはグランドゴルフ大会を予定しておりますが、それ以外（例えばキャッチボール等）のご利用も歓迎いたします。三秋地区内での親睦、コミュニケーションアップが本来の目的ですので、お気軽にご利用いただければ幸いです。但し、子供さん使用される場合は保護者の方の同伴をお願いします。

整地後、新しい土に入れ替えたコミュニティ広場

今回の整地作業を行った評議員の皆さん

みあきのピカピカ新一年生

（文責）留之助早苗

はにかんだ笑顔がカワイイ魁心（かいしん）くん

折戸地区の河野魁心（かいしん）くん（11月4日生まれ）です。今年4月から新1年生になりました。お兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に学校までの長い道のりを頑張って歩いています。みなさん、よろしくね。

お父さん、お母さんと一緒にハイ、ポーズ！

安全をしっかり守って元気に登校

（文責）原田　夏子

小学校前の横断歩道にて

新入生交通安全教室が去る4月14日、北山崎小学校で伊予警察署、中村交通安全協会の指導の下、実施されました。まずは、パトカーを使って、『車は急に止まらない』という実験をし、続いて、実際に道の歩き方、横断歩道の渡り方を学んで、最後に親御さんと一緒に実際の横断歩道を渡りました。子供の命を守る大切さとして、子供自身が安全について、自覚を持つこと、地域みんなで、子供たちを守ることをこの安全教室で学んでくれたと思っています。

三秋を想う

（文責）前三秋区長　高井久雅

高井　前区長

かつての三秋は、自然が豊で住民間の交流も活発で潤いのある大変住みよい集落でありました。しかし、この良さが失いつつあるように思えてなりません。少子高齢化・人口減少下で昔の良き点を維持していく難しさはありますが、これ以上の荒廃を食い止め、心豊かな人間関係を構築していく方策を講じなければなりません。荒廃していく郷土は忍びなく、「何とかしたい」という気持ちは、誰しも同じだと思います。そこで三秋が抱える問題点のいくつかを例に挙げ皆と考えてみたいと思います。

一つは鳥獣被害の問題です。その中でもイノシシ被害は甚大です。それを主に個人で対応していますが、それを一歩進めて『共同・集落全体』に拡大して、行政の助成も含め総合的に検討してみては如何でしょうか。

次に、耕作放棄地の問題です。『高齢化・後継者不足』が著しく、耕作放棄地も更に拡大する心配があります。この現状の打開策として、『人・農地プラン』『集落営農』『農機の共同購入』等、新たな発想で検討する時期にきていると思います。

次に、人の問題ですが、住民間の交流は以前に比べて極端に減っていると思います。地域住民がお互いに笑顔で交流し会うことは大切です。三秋には完備されたお立派な集会所がありますが、この施設を無料もしくは低料金で開放し、住民が気軽に利用し、交流を深めていけるようになればと思います。

また、コミュニティ広場の活用ですが、現状は殆ど使用されていません。盛土をして立派に整備されています。この施設を野外における交流の場として有効に活用して頂けたらと思います。現状に甘えることなく、『豊かで活力と潤いのある三秋を取り戻すために一歩前へ踏み出す勇気』が今、求められています。

和尚の小部屋

（文責）西願寺　浜井敬信

◇災害拠点

『活性化』とともに『災害時の対策』は、地域の抱える大きな課題である。明神山の背後には中央構造線、前には伊予断層が走るこの地域は、地震の直接的影響が大いに懸念されるからだ。この明神山を借景として、わが西願寺は1589年の創建以来、慶長・安政・昭和という歴代の南海地震から芸予地震まで、あまたの災害を経て地元のランドタワーとして400有余年を過ごしてきた。そして昨年、住職の世代交代を契機に、要望の多かった「空調設備完備の法要室」建設のために、庫裡の内装をリフォームし、それと共に大幅な耐震化も施した。迫り来る震災という話は、我々にとってもすでに架空のものではない。有事の際に寺院は宗教施設としてのみならず、地域の災害拠点としての役割を果たさねばならないことは、東日本大震災の体験談だけではなく、震災による「三秋の大池」崩壊を想定した今回の避難訓練の避難地として当寺院が選定されていることでも物語られている。今後、災害拠点として充実した整備も進めていきたいと思う。

私の絶景

三秋大池土手の桜と伊予灘ものがたり　（撮影）原田　夏子

流れゆく
車窓のけしき
散る桜

いつき

皆さんのお家に古い写真が眠っていませんか？昔行われていた三秋の運動会や夏祭り等、三秋に関する昔の写真がございましたらご連絡ください。
その他の投稿・情報・写真もお待ちしております。
● みあきの○○○　● 私の絶景　etc・・・
メールアドレス　info.miaki@gmail.com
もしくは、お近くの当新聞編集委員・区長・総代・お近くの各組長さんまでご連絡下さい。
宜しくお願いいたします。
おしらせ

編集後記

先日、いよし議会だよりの担当の方から、私たち地域新聞の活動について取材させて欲しいとの連絡を受け、インタビュー取材を受けました。担当の方からは、新聞制作を始めるに至ったきっかけや今後の目標等、私たちの活動に関する様々な質問があり、終始和やかに取材が行われました。今回の取材を機に、「地域新聞みあき」の活動が、伊予市内の皆さんに認知して貰え、他の地域活動団体の方との交流が広がり、私たちの活動の幅が広がるきっかけになればと思っております。ちなみに、今回のインタビュー取材の内容は、議会だより5月号「きらきら・人いろ～よ」に掲載される予定です。

（原田）

旅する蝶、みあきのあちらこちらで発見!!

（文責）中藤　真里

私も羽に日付、場所、名前を記入。
さてどこまで旅をするのだろうか？

創刊号で紹介したアサギマダラは、10月中旬頃、三秋の至るところで発見。もちろん、大池でも10匹以上の群れが、ひらひらと優雅に舞う姿が確認できという事。その他にもフジバカマを育てている個人宅にも訪れ、珍しい蝶の姿が見られたとの喜びの声が多く聞かれた。端では、10年以上フジバカマを育てている方がおり、今年も10匹近くのアサギマダラが「来たよ♪」と言っているように目の前でゆっくりと飛び、声をかけると、それに応えるように嬉しそうに飛んでくれたという。又、帰るときには、挨拶をするようにグルグルと輪を描きながら飛び、次の日には来なくなったとの事。これが毎年の楽しみだと話して下さった。端の個人宅に来たアサギマダラには、羽に日付と何か暗号のようなものが書かれていた。いったいどこから旅をしてきたのだろうか？

暗号が書かれたアサギマダラ

ジャックと豆知識②

（文責）藤岡　健司

◇ちょっと知りたい　三秋地区

「三秋の鉄砲名人？」

昔、三秋の端に左衛門（さえもん）という鉄砲名人がいました。ある日、左衛門が松山の城下へ用事に行っての帰り、石手川の土手を通っていると、四、五人の侍が鉄砲で的撃をしていました。見ているとなかなか当たらないので、左衛門は思わず声に出して笑ってしまいました。すると、武士たちは、真っ赤になって怒り出し鉄砲をさしだして「笑ったとこを見ると、腕に自信があるからじゃな！これで的を打ちぬいてみい。もし、当たらぬば、ただではすまぬぞ！」とつめよりました。左衛門は謝りましたが、武士たちは聞き入れません。左衛門はしかたなく、的の代わりにムシロを出してもらい、それに九発の玉をすばやく打ち込みました。それを見た武士たちは、せせら笑って「あんなに大きなムシロなら誰でも打てるぞバカにするな！」とかんかんになって怒鳴りました。左衛門は静かに「あなたが、小さくてもここへ打てという印があります。それがありません。」と言ったので、武士たちが計ってみると、その通りだったので、返す言葉もなかったそうです。鉄砲の名人・左衛門の評判は、大洲の殿様の耳にも入り、鴨撃ちのお供をするようになりました。ある時、草むらで鴨を待っていると、一羽の鴨が降りてきました。そこで、殿様は「もう、打ってよいか？」と聞きますと、左衛門は「まだ」と、殿様の肩をたたいて、止めました。そのうち、二羽、三羽と降りてきたので、「もう、よし」と、合図をしました。後で、殿様は、「自分の親しい家来でも、余の肩をたたいたものは一人もおらんのに、猟師の左衛門は、平気で余の肩をたたいた」といって、笑ったと言うことです。

郷土読本　ふるさと北山崎より

次回も、三秋昔話でも開いてみます。ご期待下さい。

この指と～まれ！

（文責）稲多　早苗

自作のピザ窯でピザを焼くタツ子さん

3月12日、坂井タツ子さん宅のピザ窯の取材に伺いました。ログハウスの前に自作のピザ窯はあります。双海町のピザ釜を見学に行き、ご主人と共に手作りしたピザ釜は、平成28年12月に完成しました。耐火煉瓦を取り寄せ、川で窯用の石を集め、大変な苦労を重ねましたが、その分、喜びも格別だったそうです。ピザは生地から作り、トッピングは季節によって変えています。かぼちゃ、パプリカ、ピーマン、ほうれん草、菜の花に、ちりめんじゃこやウナギ、ベーコンなどを載せ、その上にチーズをのせて窯でこんがり焼けば完成です。香ばしい香りが広がり、口に入れるとふんわり柔らかい生地が野菜等と合いつかお店をしたいね。」とほほ笑むタツ子さん。その夢が叶うといいですね。ご馳走様でした。

気さくにインタビューに答える恒成さん

ログハウスの前で

自作ピザ窯の全景

みあきにこの人あり

『マラソンランナー　藤井恒成さん』

（文責）原田　夏子

愛媛県庁前をスタートして、旧北条市内を折り返し、城山公園をゴールとする、愛媛マラソンが去る2月12日に開催され、約一万人もの参加者がありました。その中に、我が三秋からは、藤井恒成さんが、出走され、目標設定時間の6時間内を見事にクリアして、完走されました。このマラソンには、約30年前から続けて出場され、42．195キロを最高3時間15分で力走した実績も持っています。マラソンを走る楽しさはという問いに、普段、車では見過ごしてしまう風景の美しさが見られることですとの事。また、長く続けて来た秘訣は、食事に気を付けてトレーニングする事と疲れる前に止める事だそうです。ご自身の健康づくりにも一役買っていて、体力の続く限り、これからも走り続けたいとの事。私も見習いたいものです。

颯爽と走る恒成さん　愛媛マラソンにて

『野菜栽培大学　みあき』開校！

（文責）原田　浩明

ホワイトボードを使って熱弁する吉岡講師

去る3月4日、『第1回野菜栽培大学みあき』と銘を打ち、三秋集会所にて、野菜栽培に関する勉強会を行いました。この勉強会は、メイン講師である吉岡満さんの三秋地区農業活性化に対するの熱い思いに賛同した数名によって、『野菜栽培大学みあき事務局』を立ち上げ、開催に至った次第です。今回の勉強会立ち上げに際し、**①三秋地区における野菜栽培技術の向上　②次世代後継者の育成　③三秋地区以外からも参加者を受け入れ交流の場を設ける　④耕作放棄地や遊休農地の再活用促進**　そして、**⑤儲かる農業**　に繋がることを最終目標とし、三秋地域の活性化に貢献出来ればと考えております。

さて、第1回目の今回は、以下の内容で座学と実習が行われました。

①露地野菜栽培の現状認識と将来の見通し（伊予市・松前町）　②露地野菜栽培の魅力について　③野菜栽培プロ育成法について　④夏秋キュウリ栽培計画について

参加者からは、鋭い質問が飛び出す等、第1回目としては、非常に内容の濃い勉強会となりました。次回も非常に楽しみです。

吉岡講師の畑にてキュウリ用アーチの設置実習

三秋の苗は私が引き受けます

（文責）原田　浩明

笑顔が素敵な水口社長

三秋の野菜作りに欠かせない苗。今回、『野菜栽培大学みあき』開校にあたり、育苗についての勉強で、上三谷にある水口育苗センターへ見学に行き、社長の水口達也さんに育苗についてお話を伺って参りました。

◇どの様な思いで育苗をやっていますか？

食料自給率が低い中、農家さんの手伝いが出来たらという思いで苗を作っています。特に土は、出来合いのものを持ってきて、ハイ出来上がりというものではなく、草や葉っぱ、もみ殻など腐らせて、3、4年の時間と、手間をかけて、丹精込めて作っています。

◇やりがいは何ですか？

うちの苗が元気にすくすく育っているのをみると、嬉しくなりますね。それがやりがいですね。

◇苗を作る上で苦労すること は何ですか？

苗は人間でいうと赤ちゃんのようなものなので、大きくなるまで気を付けてよく観察しなければなりません。ですから、子供のように愛情を持って育てています。また、同じ大きさの苗にするのも一苦労。水と温度が大切で、毎日気を使っています。

◇現在扱っている苗は何種類ですか？

野菜苗は、15～20種類ほどです。4月から6月は水稲苗の最盛期。野菜苗は、年中有ります。

◇今後の目標は何ですか？

農家さんがこうして欲しいという苗をつくること。農家さんに合わせて、大ロットだけでなく、少数の苗も提供できるのが強みです。これからは、農業の魅力を伝えて、少しでも、人材確保に貢献出来れば幸いです。

育苗に対する熱い思いを我々に語って頂いた水口社長は、今回の『野菜栽培大学みあき』をはじめ、当地域新聞の活動に大変関心を寄せて頂いており、地域の枠を超えて、出来ることがあれば協力しますと仰っておられました。水口社長、今後とも宜しくお願いします。

センター内の育苗ハウスにて

ぼくのトモダチ

（文責）髙井　健一

放牧中・・・

三秋下地区の高井良輔さんが飼っているヤギさんたちです。休作中の畑の雑草を食べて活躍中です。人に慣れているのでこんな写真も撮れました。天気のいい日にはかなりの確率で出会えますよ？

ぼくのトモダチです！

みあきのネオン街

（文責）吉岡　満

夜のネオン街 in 三秋

三秋の玄関口に輝くネオン、憩いの場「カラオケ　さち」があります。北は松山から南は大洲、双海から多くの人で、日夜カラオケが響いている。女性の歌い手さんは、歌う日が待ち遠しい！昼間の農作業も早々と切り上げ、主婦業もこなし、カラオケ場に向かうことが多い。カラオケの魅力は、ストレス発散、それが明日への鋭気になる。何より人との会話が楽しいし、又、情報交流もあるからねと笑顔で話して下さりました。三秋の皆さんも、一度覗いてみては如何でしょうか？

常連客で盛り上がる「カラオケ さち」

「カラオケ　さち」のママ　幸恵さん

「カラオケ　さち」のママよりメッセージを頂きました。

◇この道一筋30年の思い

折井　幸恵

昭和62年に始めた「カラオケ　さち」もこの秋で30周年を迎えようとしています。これも偏に協力して頂いた、地域の皆様、そして大切なお客様の賜物と、心から感謝しております。お客様が笑顔で「今日も楽しかったよ。」と帰って行く姿を見送ると、また次の日を迎える楽しみが湧いてきます。年老いてきましたが、体力が続く限り、これからも大切なお客様の憩いの場として、笑顔で接していきたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。